

※特記なき限り下記による。

- 1) 基礎：ベタ基礎 基礎梁外周部=FG1 内部立ち上げ=FG3 耐圧盤=FS1
 - 2) 土台：ひば-120×120 甲種構造材2級
 - 3) 柱：管柱 集材材 E 95-F270(105×105)
 - 4) 梁材：集材材 E120-F330 105×105 (梁巾=105)
 - 7) クルキ：栴 4.5×90@455 L=1820以下 甲種構造材2級
- 特記なき母屋：集材材 E120-F330 105×105@910
屋根は剛屋根とする

注意事項：設計図書と木造設計仕様と異なる場合は、設計図書を優先する。
長期許容地耐力 FE=29.0t/m² コソクリートFC=210
鉄筋 SD295

※工事着工前に敷地内にて地盤調査を行う事

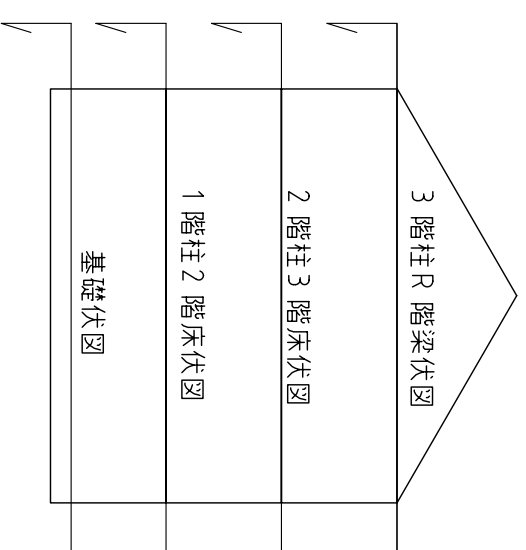
- …… 床より上の柱を示す
- ☒ …… 床より下の柱を示す
- ☒ …… 管柱 120×120 E95-F270

※柱・梁の接合部には設計仕様の金物を使用する
特記なき限り (HDBのつかない接合部)
1階柱脚：A.BOLT付の柱脚は、VP+CPTを配置する。
1階柱頭：外壁周りの柱頭は、VPを配置する。
：室内の柱頭は、CPTを配置する。
2・3階柱頭・柱脚：外壁周りの耐震壁付の柱は、VPを配置する。
：室内の柱は、CPTを配置する。

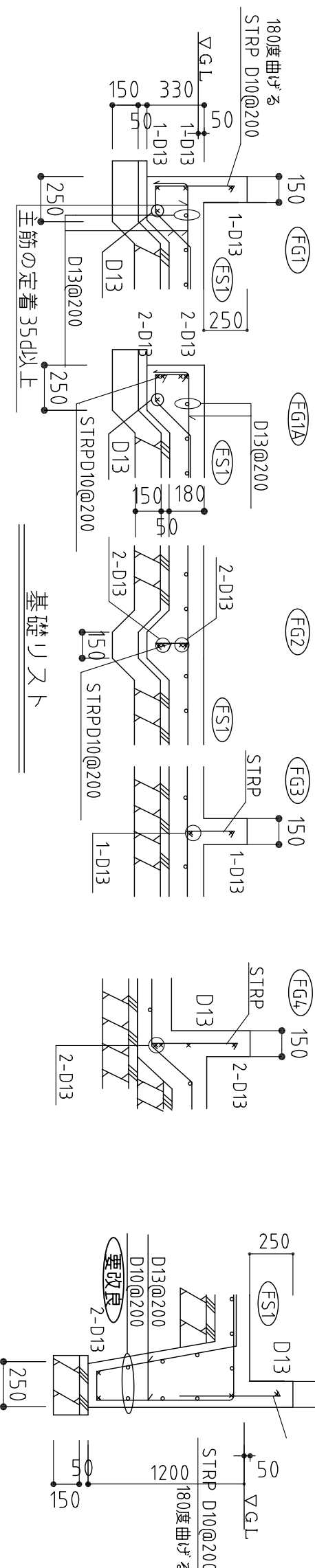
※平成12年建設省告示第1460号に対応した
木造住宅用接合金物の使い方(参照)
(財)日本住宅・木材技術センター
TEL 03-3589-1788

- 8) 2・3階の床の構造用合板 T=24mm
- 9) 二重耐震壁を配置する場合、柱と柱の上下をボルト1φ中で緊結する。
- 10) 構造用合板のくぎ打ち方法：くぎの種類 JIS A 5508-1975(鉄丸くぎ)に定めるN50又はこれと同等以上のくぎ。
くぎの間隔 15cm以下
- 12) 1FのHDBは、全て基礎に緊結し、当該階のHDBは柱頭・柱脚に配置する。

耐力壁	A (筋違単独)	B (構造用合板又は筋違との併用)
ΔW4 壁倍率4.0	筋違45×90(たすき掛)	構造用合板一級厚12ミリ以上+筋違30×90
ΔW5 壁倍率5.0	—————	構造用合板一級厚12ミリ以上+筋違30×90(たすき掛)
ΔW5 壁倍率5.0	せっこうボード15mm (JIS A 6901-1979) +筋違45×90(たすき掛)	
ΔW5A 壁倍率5.0		構造用合板一級厚12ミリ以上(片面貼り)



FG1A・FG2は柱下・梁下迄定着する事



設計者	承諾者	縮尺 S=1/50	工事名称 life stage鶴ヶ峰Ⅲ 15号棟 新築工事	図面番号 S
		設計年月日 H17.10.5	図面名 基礎伏図・各階伏図	